阿賀野市農業技術情報

NO･2 令和4年7月発行
阿賀野市農業振興協議会

【この時期の管理ポイント】
- ○ 中干し後は、間断潅水や飽水管理により、根の健全な発育を促し丈夫な稲づくりを目指しましょう！
- ○ 登熟を高めるため、ケイ酸資材を積極的に施しましょう！
- ○ 穂肥は生育診断により、適期に施用しましょう。全量元肥施肥（一発施肥）でも、葉色が低下した場合は追肥しましょう。
- ○ 極早生や早生品種は、１回目の穂肥時期を迎えるので、適期に穂肥を施用しましょう。
- ○ 近年、カメムシ類による斑点米の発生が増加傾向にあり、コシヒカリでも多発している状況です。まずは畦畔・農道の草刈りを徹底し生息数を減らしましょう！

1　６月２０日現在の水稲生育状況

（１）６月上旬の低温、少照で生育の進みは緩慢となりましたが、その後は気温も高く推移し、現在は草丈、葉数、葉色は概ね平年並、茎数が平年並～やや多の生育となっています。

（２）<u>６月２０日現在、コシヒカリの生育状況（ほ場間差大きい）</u>

目標値比較　草丈：やや長い　茎数：やや多い　葉数の進み：やや早い　葉色：濃い
平年値比較　草丈：やや短い　茎数：並　葉数の進み：並　葉色：並

表１　水稲生育状況（６月20日現在）

品種名	地域名		田植日	草丈(cm)			茎数(本/㎡)			葉数（L）			葉色（SPAD）		
				本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	差	本年値	前年値	差
コシヒカリ	水原	下条	5/23	31	40	77	239	332	72	7.5	9.2	-1.8	39.6	39.0	0.6
	京ヶ瀬	京ヶ島	5/4	40	41	97	456	456	100	9.7	9.0	0.7	39.5	41.1	-1.6
	安田	嶋瀬	5/4	40	47	86	474	438	108	9.0	9.6	-0.6	44.6	39.5	5.1
	笹神	七浦	5/3	36	44	83	361	509	71	9.1	9.9	-0.8	37.0	39.9	-2.9
	笹神	沖	5/3	31	36	85	336	291	116	8.7	8.5	0.2	39.0	39.8	-0.8
	平均		5/7	36	42	86	373	405	92	8.8	9.2	-0.5	39.9	39.9	0.1
こしいぶき	水原	中潟	5/7	39	40	97	611	518	118	8.8	9.5	-0.7	44.1	45.6	-1.5
	京ヶ瀬	田山	5/3	36	39	91	453	479	95	9.3	8.8	0.5	38.1	42.1	-4.0
	安田	籠田	5/7	36	35	102	456	365	125	8.7	9.0	-0.3	42.7	39.7	3.0
	平均		5/5	37	38	96	507	454	112	8.9	9.1	-0.2	41.6	42.5	-0.8

2　中干し後～穂肥までの管理（　溝の確認・飽水管理・ケイ酸質資材の積極的な施用　）

６月２３日発表の北陸地方の１ヶ月予報では、天候は曇りや雨の日が少ない見込み。
平均気温は高く、日照時間は多い、降水量は平年並か少ない。
長雨や高温、ダシ風など気象変動に負けない技術対策が必須となっていますので、下記の対策を参考に実践し、気象変動に負けない稲づくりを徹底しましょう。

（１）**切った溝の手直し、連結を確認しましょう**
- 迅速な水の供給と排水、湯水時の効率的な用水利用を図るため、切った溝の手直しやタテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認しましょう。
- 中干し後は、飽水管理や間断潅水（浅水で湛水→足あとに水が残っているくらいまで減水→再び浅水湛水）を継続しましょう。

ダシ風が予想される場合は地域間で協力し合い、水利用が集中しないよう早めに対応しましょう。

（２）**ケイ酸質資材の積極追肥で登熟向上を図りましょう。**
- 稲は、出穂４０日前頃から出穂期にかけて、ケイ酸を最も多く吸収します。
  出穂40～35日前のケイ酸追肥は丈夫な稲づくりとともに登熟向上に効果的です、積極的に施用しましょう。

表２　主なケイ酸質資材の施用例

資材名	施用時期	施用量（kg/10a）
けい酸加里ﾌﾟﾚﾐｱ34	出穂35～40日前	20～40
マルチサポート2号	出穂40日前	20～40
ミネラル三昧	出穂20～40日前	15～30

★ケイ酸の効果
- 受光態勢が良くなり登熟を高めます。
- 根の機能を高め、根腐れ防止や吸水力等を高めます。
- 高温時、葉面温度の上昇を抑え光合成能力の低下を防止します。
- 茎葉が丈夫になり病害虫に対する抵抗力が強まります。

3　穂肥施用のポイント

６月20日現在の生育による水稲の出穂期は、平年に比べて２日程度早くなる見込み

表３　出穂予想と穂肥の施用量・時期のめやす　（月/日、kg/10a）

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素量合計（kg/10a）	穂肥時期	
				１回目	2回目
五百万石	6/29	7/20	１～２	6/30 (-20)	7/8 (-12)
ゆきん子舞	7/1	7/23	５～６	6/28 ～6/30 (-25～-23)	7/9 (-14)
つきあかり	7/2	7/24	５～６	6/29～7/1 (-25～-23)	7/10 (-14)
こしいぶき	7/2	7/25	２～３	7/2 (-23)	7/11 (-14)
コシヒカリ	7/12	8/4	１～３	7/17～7/20 (-18～-15)	7/25 (-10)
新之助	7/18	8/10	１～３	7/20～7/23 (-21～-18)	7/29～7/31 (-12～-10)
わたぼうし	6/30	7/22	２～３	6/30～7/2 (-23～-20)	7/10～7/12 (-12～-10)
こがねもち	7/7	7/30	１～３	7/12～7/15 (-18～-15)	7/20 (-10)

※幼穂形成期：幼穂長１mm以上の穂が全体の80%以上を占めた日
※穂肥時期下段（　）は出穂前日数
※コシヒカリと新之助、こがねもちは5月10日頃移植、その他品種は連休移植を想定し予想したものです。

（１）出穂期は、６月20日現在、「平年より２日程度早まる」と予想しています。出穂期は、田植え日、今後の天候により変動しますので、穂肥作業の<u>**「めやす」**</u>としてください。

（２）穂肥の施用に当たっては、必ず生育診断を行いましょう。<u>**全量元肥施肥（一発施肥）でも、葉色が低下した場合は追肥しましょう**</u>。

（３）**極早生や早生品種は、間もなく１回目の穂肥時期を迎えるので、生育診断を必ず行い、適期に穂肥を施用しましょう。**

（４）穂肥に使用する肥料の種類や施肥体系による使用時期や施用量に注意しましょう。（下表）

表４　肥料の種類及び施肥体系別穂肥施用のめやす（コシヒカリ）

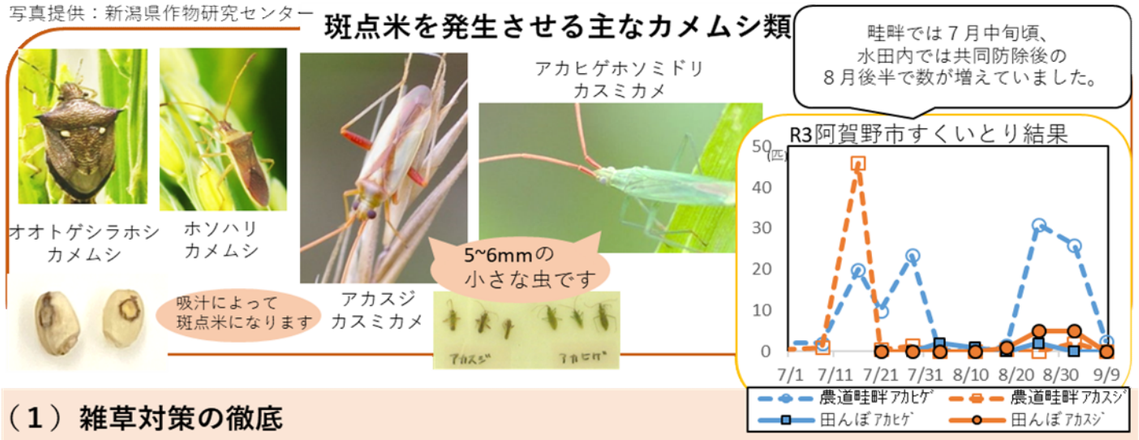
施肥体系	肥料の種類	出穂前日数					
		30日前	25日前	18～15日前	10日前	６日前	３日前
分施	化学肥料	－	－	１回目	２回目		３回目 ★葉色（SPAD値）31以下の場合のみN1.0kg
	有機質肥料						
	有機由来N： 50%	－	１回目	２回目			３回目 ★出穂期６日前の葉色（SPAD値）33以下の場合のみN1.0kg
	有機由来N：100%	１回目		２回目		３回目 ★出穂期６日前の葉色葉色（SPAD値）33以下の場合のみN1.0kg	
基肥一発	化学肥料		追肥 ★出穂期の葉色（SPAD値）32～33以下と予想される場合のみN1.0kg				

カメムシ類による斑点米発生防止対策を徹底しましょう

近年の阿賀野市のカメムシ類主要種はアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメです。
（1）イネ科雑草がカメムシの生息場所になります。**畦畔、水田内の雑草対策を行いましょう。**
（2）早生品種や多発生地域のコシヒカリは共同防除後の追加防除を検討しましょう。

写真提供：新潟県作物研究センター

斑点米を発生させる主なカメムシ類



畦畔では７月中旬頃、水田内では共同防除後の８月後半で数が増えていました。

（1）雑草対策の徹底

畦畔や水田内に下図のような穂をつける雑草があると、カメムシが卵を産んで繁殖してしまいます。**イネを加害する世代が増えないように、今のうちから生息場所を減らしましょう。**
また、薬剤散布を行っても雑草があると生き残る確率が上がります。

畦畔

雑草が穂をつけない間隔で草刈りを行いましょう。これからの季節は**メヒシバが主な繁殖場所になります。**
刈った草も放置しておくと生息場所となるため処分しましょう。

水田内

水田内に生えている雑草はカメムシの拠点になります。
除草剤等で取りこぼしたホタルイ・ヒエは早めに除去しておきましょう。

この雑草に注意！

（2）追加防除の実施

共同防除はコシヒカリの出穂期に合わせた１回防除になっています。
出穂の早い早生品種は、共同防除前に個人防除を、多発生地帯ではコシヒカリの追加防除も検討しましょう。

早生品種：共同防除前個人防除＋共同防除
コシヒカリ：共同防除＋共同防除後個人防除

熱中症に気をつけましょう

～熱中症は適切な予防をすれば防ぐことができます～

農作業中の熱中症による死亡事故は７月～８月に多い傾向があります。　農業従事者の中には、熱中症の具体的な症状がわからず、自ら意識しないうちに熱中症にかかっている方が多くいます。　特に高齢農業従事者は脱水しやすいため、こまめな水分と塩分の補給や休憩、周囲の方が協力して声かけを行うなど、重点的な対策が必要です。
また、熱中症による死亡者が増え始める「最高気温３０℃」を超えない日でも、暑さに慣れていない時期やビニールハウス内などでは死亡事故が発生しております。
早めの対策で熱中症の予防を図りましょう。

～熱中症が疑われる場合の処置～

1　暑い環境で次の症状がみられたら、作業を中断してください
- 手足がしびれる、冷たい
- めまい、吐き気がする
- ズキンズキンとする頭痛がある
- 汗をかかない、体が熱い
- 意識の障害がある
- 体がだるい、まっすぐ歩けない

2　応急処置を行いましょう
- 涼しい場所への避難
- 服を緩め風通しよくする
- 扇いだり、水をかけるなどして体を冷やす
- 水分や塩分を補給する

※脇の下や両側の首筋、足の付け根を冷やすと効果的です

3　病院で手当を受けましょう
- 意識がない
- 水が飲めない
- 応急処置しても改善しない

～夏の農作業で心がけること～

①　日中の高い気温の時間帯を外した作業
✷特に70歳以上の方は、のどの渇き等感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう

②　作業前・作業中の水分補給とこまめな休憩
✷20分おきの休憩とコップ1～2杯の水分補給
✷休憩は日陰等の涼しい場所で体温を下げる
✷足がつる等の症状には塩分を補給する

③　熱中症予防グッズを活用する
✷屋外では帽子や吸汗速乾性の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーを活用しましょう

④　極力単独作業は避ける
✷作業は極力２人以上で行うか、時間を決め定期的に水分・塩分補給の声かけを行いましょう

⑤　高温多湿の環境は避ける
✷暑さ指数(WBGT)計で作業環境の確認を行う
✷作業場所に日よけを設ける等、できるだけ日陰での作業に心がけましょう
✷特にビニールハウス等は風通しが悪く、早い時期・時間に暑さ指数(WBGT)も高くなるので、風通しを良くしましょう

～農作業中の「新しい生活様式」で気をつけること～

●気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症リスクが高まるおそれがあります。農作業中で人との距離（少なくとも２ｍ以上）が確保できる場合は、熱中症リスクを考慮し、マスクをはずすようにしましょう。

●マスク着用時には、強い負荷の作業を避け、のどが渇いていなくてもこまめな水分補給を。また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、適宜、マスクをはずして休憩することも必要です。

阿賀野市のホームページからもご覧いただけます！

阿賀野市 農業技術情報　検索

もしくは、二次元コードを読み取ってください。